

中小企業情報化施策と中小製造業の内部組織の情報化 —経営の情報化による存立の確保—

*はっとりしげかず

服部繁一

本研究は序章、終章を含む全 7 章より構成される。研究の問題意識は、情報化政策・施策の制度と中小企業の情報化動向を理解するとともに、中小製造業が情報技術を活用して存立を保ち事業を継続する経営行動について解明することである。

序章では、上述した問題意識、研究課題、研究方法を述べている。研究課題は 2 つある。第 1 に政策・施策を理解し我が国中小企業の情報化の全体的な傾向を把握することである。第 2 に中小企業が情報社会に適応し存立基盤を確保していく状況を明らかにしていくことである。研究方法は、2 次資料による検討と、中小製造業の情報化事例を検討する。

第 1 章では中小企業の情報化研究の成果と課題について 2 点から検討した。第 1 に戦後から現在までの経営の情報化について検討した。第 2 に情報化の研究成果と研究課題を検討した。先行研究の課題は 2 つある。第 1 に中小企業の情報化政策の研究は、具体的施策や影響を受けているであろう中小企業者の情報化の傾向が不明確である。第 2 に情報化の特徴の一側面の研究が中心となり一般的な指摘に留まってしまい情報化が進展しているにも関わらず研究が停滞していることである。そこで本研究では、第 1 に情報化政策を施策レベルで詳細化して把握し、統計に基づいて情報化の傾向を把握することと、第 2 に中小企業経営の詳細な分析に焦点を当てることを研究課題とした。

第 2 章では、1970 年から最近までの中小企業の情報化施策を検討した。また情報政策と経営の情報化の進展に伴って充実した施策の分類を試みた。

第 3 章では、第 2 章で残された課題である中小企業全体の情報化を考察した。第 1 に経営環境の変化、情報技術の進歩、情報技術の活用、情報化施策による支援を検討した。第 2 に中小企業の情報化への取組について第 2 章で用いた時代区分で検討した。

こうした政策・施策と統計に基づく情報化動向の把握が本研究の第 1 の課題であった。しかしこの課題は実態をより細かく見ていくことが必要である。これが本研究の第 2 の課題であり、第 4 章、第 5 章では、中小企業経営における情報化の事例を検討した。

第 4 章では、労働集約型産業である軽工業の業態転換の事例 3 社を検討した。企業が存続するための経営課題と対応策を詳細に聞き取りし経営の特徴を検討した。

第 5 章では、第 4 章で残された課題も念頭に置きながら持続的発展のために環境変化に応じた経営戦略を定め、業務改革に経営情報を活用している中小製造業の特徴を検討した。

終章では、これまで述べてきた研究を総括して、結論と今後の研究課題を提示した。